

協力隊経験を生かした国際理解教育実践例

発表者氏名： 小澤 明子

所属学校種： 相模原市立上溝小学校

派遣職種： 音楽

派遣国： パラグアイ

派遣先： コロネルボガード教員養成校



キーワード： まず第一歩～楽しく知ろう、パラグアイ！～

発表要旨：

国際理解の第一歩はまず「知る」ことです。それも楽しくです。道ばたの草でも草の名前を知ると親しみがわくように、いろいろな国を知ることによって親しみがわき、それにより、「仲良くしたい」「日本を紹介したい」「助け合いたい」という気持ちが育っていくと思います。堅く考えずに、まず第一歩。ちょっとした時間に気楽に楽しく…その授業実践と、そのために派遣中にやっておくと帰国後に役立つものを紹介します。



実践例（帰国後7年間でやってきたこと）

- ・総合的な学習の時間を使って音楽祭「南米スペシャル」を企画
 - ・教員の研修会での発表2回（湘北地区、神奈川県）
 - ・朝会で全校児童にパラグアイハーブの紹介（川尻小、上溝小）
 - ・各国語のあいさつ
 - ・県の音楽会で担任を持つ4年3組が「花祭り（ボリビアの曲）」を披露、学年の音楽会で南米を中心にした組曲を各クラスが演奏
 - ・授業でパラグアイの文化とハーブの紹介（上溝小2年生4クラス、1年生4クラス、3年生4クラス、4年生1クラス、5年生3クラス、筑波大付属小4年生1クラス）
 - ・新採用教員への国際理解教育の模擬授業
 - ・保護者へのパラグアイ紹介の模擬授業（懇談会を使って）
 - ・学校職員（希望者）へのパラグアイ紹介

派遣される方へ～帰国してから役立つもの

- ・写真（できれば短い動画、街、人、動物、食べ物、行事、自分の教えている様子）
- ・実物（楽器、特に打楽器、衣装、かぶり物、特産物、パラグアイ人の友だち）
- ・ダンスや現地の楽器の演奏、現地の料理などを習ってみる